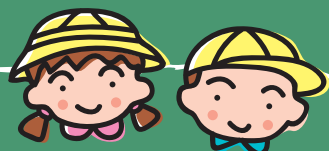


みんなのスペース

わたしのゆめ



さわぐちりのちゃん
(織笠保育園・6)

大きくなったらパティシエになりたいです。クレープを作って保育園のおともだちに食べさせてあげたいな。

煤払いに感じる時の流れ

町長選でにぎわった平成20年も早いもので終わろうとしている。師走の声を聞くと年越しの準備で何となく気ぜわしくなり、何から手を付けたいのか苦慮する。そして頭に浮かぶのがやはり煤払い(この地方では煤掃き)の大仕事だ。

振り返ってみると、その昔の煤掃きといえば、畳を全部戸外に並べて天日干しするのが通例だったが、時の流れとともに今はそんな風習が見られなくなった。そればかりか何をするにも水や洗剤はもちろん、掃除機まで便利に普及し、言ってみればこの家庭でも何となく主婦利がひところのように骨が折れない時代になってきた気がする。私たちが幼いころ、両親が煤まみれになり夕刻がする。私たちが幼いころ、両親が煤まみれになり夕刻がする。私たちが幼いころ、両親が煤まみれになり夕刻がする。

新年を夢見つ妻と煤を掃く

齋藤忠雄(船越・83)



おぐさる(7)



TUYOK-I(9)



佐々木智輝(?)



フレンドブッカ(?)

佐藤豊子(境田町・69)

歴史講演会に参加し 思いはせた啄木の歌

去る12月12日、石川啄木と三陸沿岸に関する歴史講演会に参加致しました。啄木記念館学芸員の山本玲子先生は、スライドで啄木の学生時代や歌碑などの写真を交えて分かりやすく話してくださいました。

石川啄木にあこがれて山田短歌会に入会して間もない平成9年7月、教育委員会主催の文学探訪の旅に参加し、啄木の里旧浜民村(盛岡市玉山区)を訪ねました。その昔啄木が教壇に立った浜民小学校の2階の教室で館長さんのお話を聞き、その折詠んだ歌4首の中から。

文月に啄木の里訪ね来て涙の歌の歌碑を巡りぬ
幼き日啄木住みし宝徳寺の静かな沼に蓮の花咲く
短歌や俳句、詩などは、紙とペンがあればお金のかからない趣味です。若い方々も短歌会へ入会し、感性豊かに日々を過ごしませんか。

菊地サカエ(織笠・73)

懐かしいひき臼の思い出

年々、時の経つのが早く感じる。師走になると、子供のころに母親が「正月が来っからきなこをこっざぐべす」と言っていた言葉を思い出す。

まき火をとる火にして秋に収穫した大豆を鉄なべに入れ、木べらで焦げないように味をみながら煎り終えると、臼をひく。わたしの小さい手に重なる、ひき臼の棒を右から左へ回す母の手が温かかった。小さい穴にころころと豆を入れると、ひき割られて出てくる。それを「こおろし」篩にかけると、純なきなこの出来上がり。白いもちや栗もちにくるんで食べた味は忘れられない。

遠い遠い日に生活を支えてきた貴重なひき臼も、世の中の流れに乗って漬物の重石や戸外にさらされ、むなしさを感じている。遊び心で手伝った60余年前、懐かしいとともに物語りとなった。

山田よいとこ好きな町(20)

明けましておめでとうございます。

今月号はおめでたい正月号。

“めでためでたの猿引きに おんぶおんぶの小猿さん

梅の蕾はまだ赤い コンコン小村の小正月”

と、まだ幼かった小学生のころ聞いた覚えがあります。題名などもよく分かりませんが、ご存じの方はご教示くださればありがたいと思います。こんな歌などを歌いのんびり過ごすお正月って、身も心も和んでやはりいいもんですね。余談はさておき本題に入ります。

今回は豊間根の白山様。山田町史に詳しく載っていますが、かつては白山寺としてお寺さんと呼ばれていました。明治初年に日本国は古来神国であるとして発令された神仏分離令により廃仏棄釈の嵐が吹き荒れ、その難を避けるため寺院を神社に改めました。11号で書いた関口のお不動さんが関口神社になったのと同じ事柄でしょう。そういえば昭和30年ころ、団体旅行で関西方面へ行ったときも「北州さん、お寺なのになんで鳥居があるんですか?」と尋ねられたことがありました。全国にあちこち、どこにもあることのようにです。

白山様でわたしが思い巡らすのは、昭和10年代ころ、関谷の堀合家の馬頭観音、豊間根の白山神社、宮古市藤畑の駒形神社(御蒼前様)へご参拝に行くチャグチャグ馬つのことです。当時は自動車などめったに見かけませんでした。町中どこにも馬がいて、学校の行き帰りにちょっと怖い思いをしたもんです。祭日は旧暦の4月中ごろですから、ちょうど初夏のころでしょう。各地の馬が総出の祭りでした。馬はきれいに飾り、首に馬鈴を吊り下げて、チャグチャグ〜ガラーンゴローンと(ガラーンゴローンは大きな丸い鈴の音)にぎやかな音を響かせながらボクボク、バカバカやってくる。龍昌寺前の寺小路へ来た一隊は後谷地の踏切を渡り坂道を行くと、右側の土手にあった墓の神(今は左側の変電所前)付近にある小石を拾ってお供えし、拜む。ここを通る人々は誰もが小石をささげた。そんな風景を思い出すと、のんびりした古きよき時代のことが身に染みて心温まる。(つづく)

ペンネーム・山田北州(山田・87)

やまだ文芸広場

金魚たち師走になるや固まりつ

じつと待ちます春の日ざしを

月々の気温も指に思いつつ

点字の暦読みる師走

初春に誓いし夢をつぶやきて

愛を奏でし優しさ求め

高連道山田湾内みさくれば

宝の海は静かに光り

門松にめでためでたの猿まわし

大川ヒメ子(大沢・64)

菊地閑悟(山田・87)

「今年に丑年」

モウ、早いもので平成21年になりました

モウ、これ以上高齢者などの

医療費負担がないように

モウ、仕方ないと思っちゃいけない

地球温暖化

牛乳ばなれ、牛さんモウモウ泣いています

ギョウツ、と引き締め

山田の皆さんに良い年でありますように

佐藤啓子(船越・?)

◆投稿規定 ▷住所、氏名、年齢、電話番号を明記。ペンネーム、匿名での掲載を希望する方はその旨をさらに付け加えてください▷住所、氏名が記入されていないものは掲載しません▷営利・政治的活動を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載できません▷投書を添削することがあります。◆あて先 〒028-1392(住所不要) 山田町役場総務課情報管理担当へ。